

2022年10月期第2四半期 決算説明会

2022年6月24日

 **クミアイ化学工業株式会社**

本日のアジェンダ

- I. 事業環境
- II. 2022年10月期 第2四半期実績
- III. 2022年10月期 業績予想
- IV. 重点施策の実施状況
- V. 質疑応答

ロシア・ウクライナ情勢による事業への影響

✓ 直接的な影響

ロシア・ウクライナ向けの直接的な取引は少なく、上半期における影響は限定的

✓ 間接的な影響

原材料コストやエネルギーコストの上昇、海上輸送の混乱等がリスク要因

リスク要因

- 原油価格、LNG価格の高騰による原材料コスト、エネルギーコストの上昇
- 世界的な海上輸送の混乱、輸送費の高騰
- 販売機会の減少

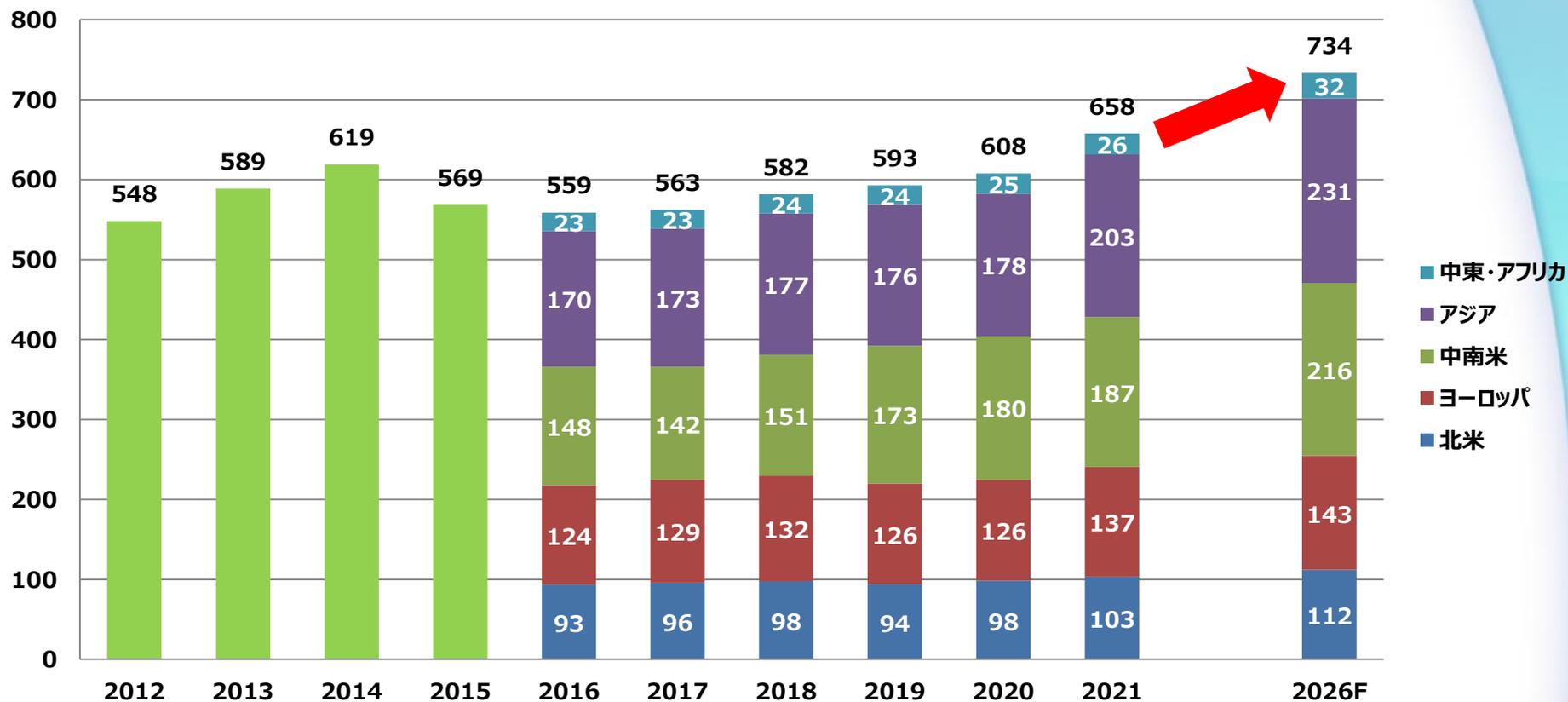


現時点での影響は限定的だが、情勢の長期化による国際社会の動きを注視しつつ適切に対応していく

農薬市場の動向

- ✓ 世界市場は2016年を境に回復基調、2026年には734億ドルまで拡大と予測
- ✓ 国内は3,400億円前後の横ばいで推移

(億ドル)



出典：Agbioinvestor

I. 事業環境

II. **2022年10月期 第2四半期実績**

III. 2022年10月期 業績予想

IV. 重点施策の実施状況

V. 質疑応答

2022年10月期 第2四半期実績

(億円)	2021 2Q実績	2022 2Q実績	前年比	2022.2Q 当初予想 ^{*2}	当初予想比	要因
売上高	588	722	+134	653	+69	<ul style="list-style-type: none"> ・農薬主要剤の増収 (+) ・化成品事業の回復 (+)
営業利益	48	79	+31	57	+22	<ul style="list-style-type: none"> ・増収に伴う利益増 (+) ・為替影響 (+) ・調達価格増 (-)
経常利益	65	114	+50	68	+46	<ul style="list-style-type: none"> ・為替差益 (+)
当期純利益 ^{*1}	47	80	+32	48	+32	-

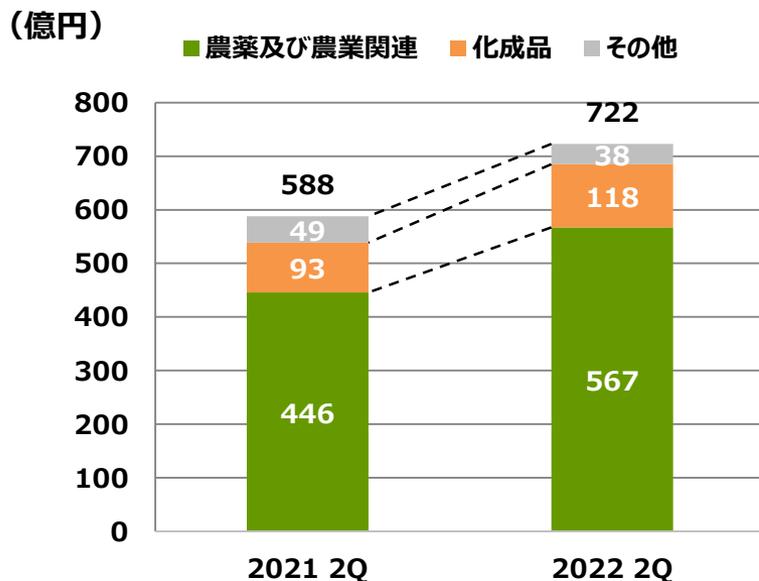
*1親会社株主に帰属する当期純利益

*22022年6月7日に業績予想の上方修正を開示

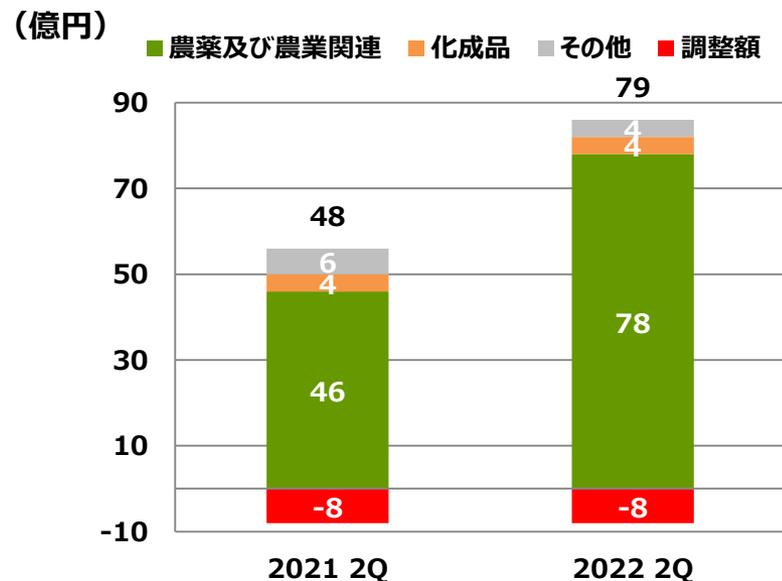
セグメント別売上高及び営業利益

- ✓ アクシーブの大幅増収及び国内向け新剤の成長
- ✓ 化成品事業における塩素化事業のコロナ禍影響からの回復

連結売上高



連結営業利益

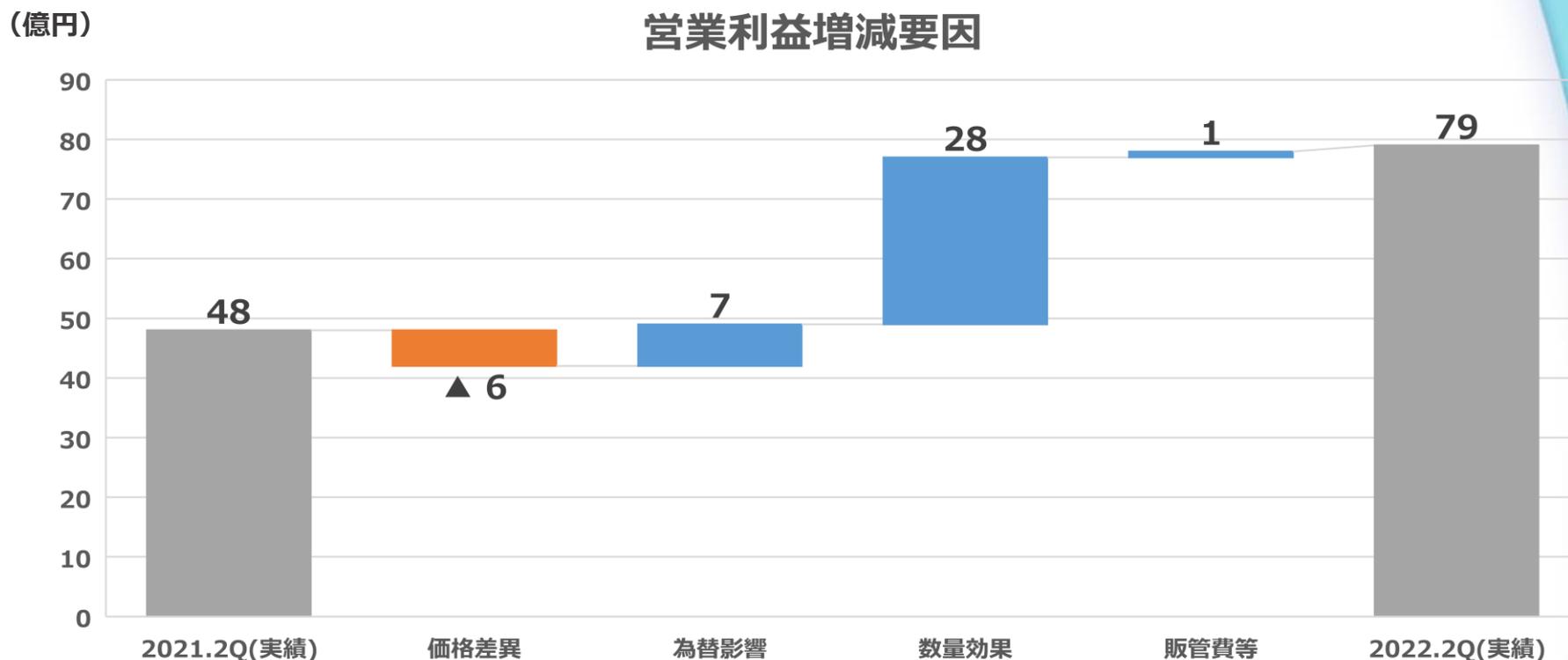


	売上増減	利益増減
農薬及び農業関連	+121億円	+32億円
化成品	+25億円	+0億円
その他	-11億円	-2億円

営業利益増減の要因分析

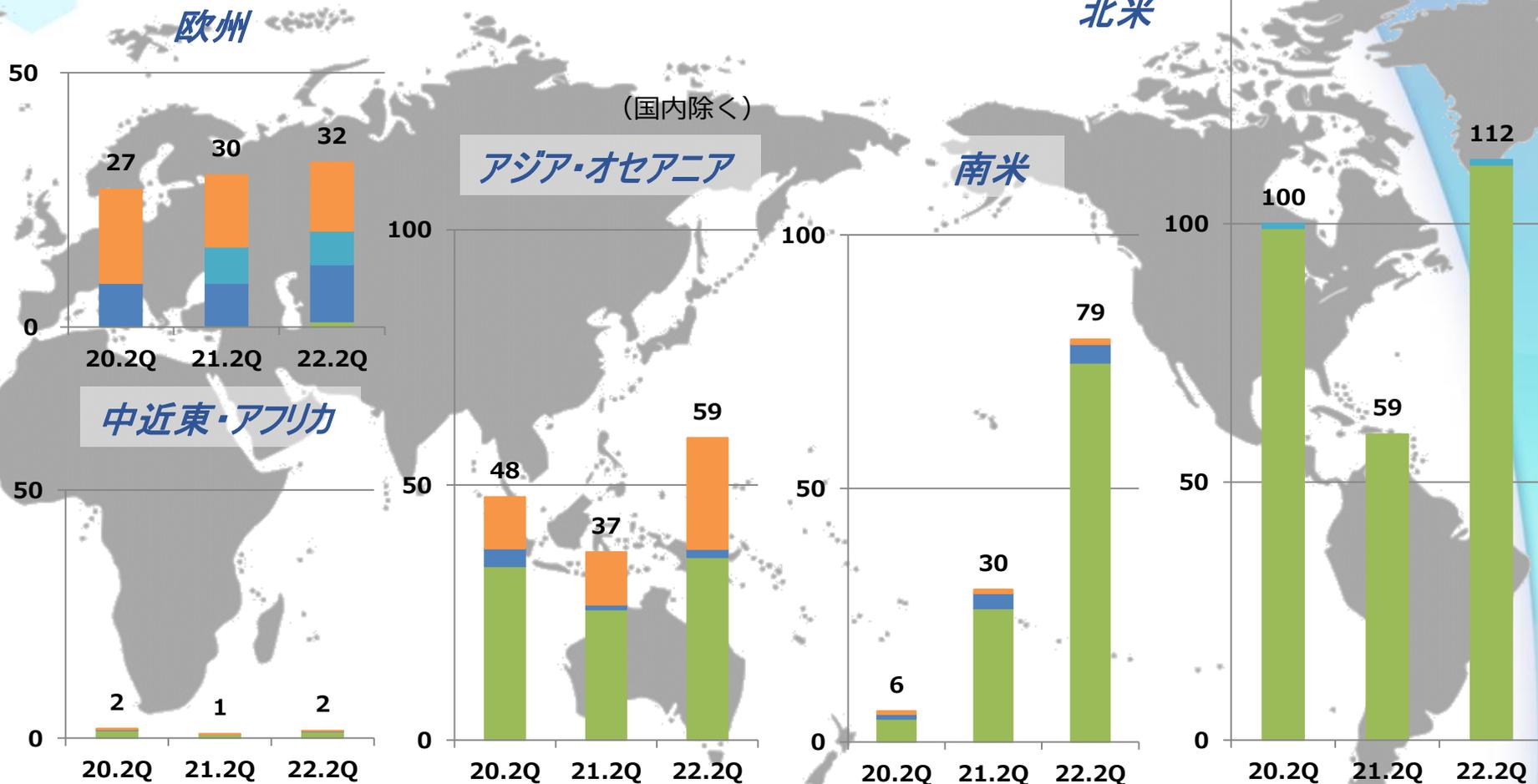
増減要因

- ✓ 農薬及び農業関連事業の好調な推移による増益
- ✓ 原材料高騰の影響が価格転嫁を上回る形で推移したものの、為替影響、数量効果により大幅増益
- ✓ 輸送費の高騰があったものの、収益認識基準適用による販管費の支出減



海外地域別・用途別売上高 (農薬及び農業関連)

(億円)



■ 除草剤 ■ 殺菌剤 ■ 植物成長調整剤 ■ その他

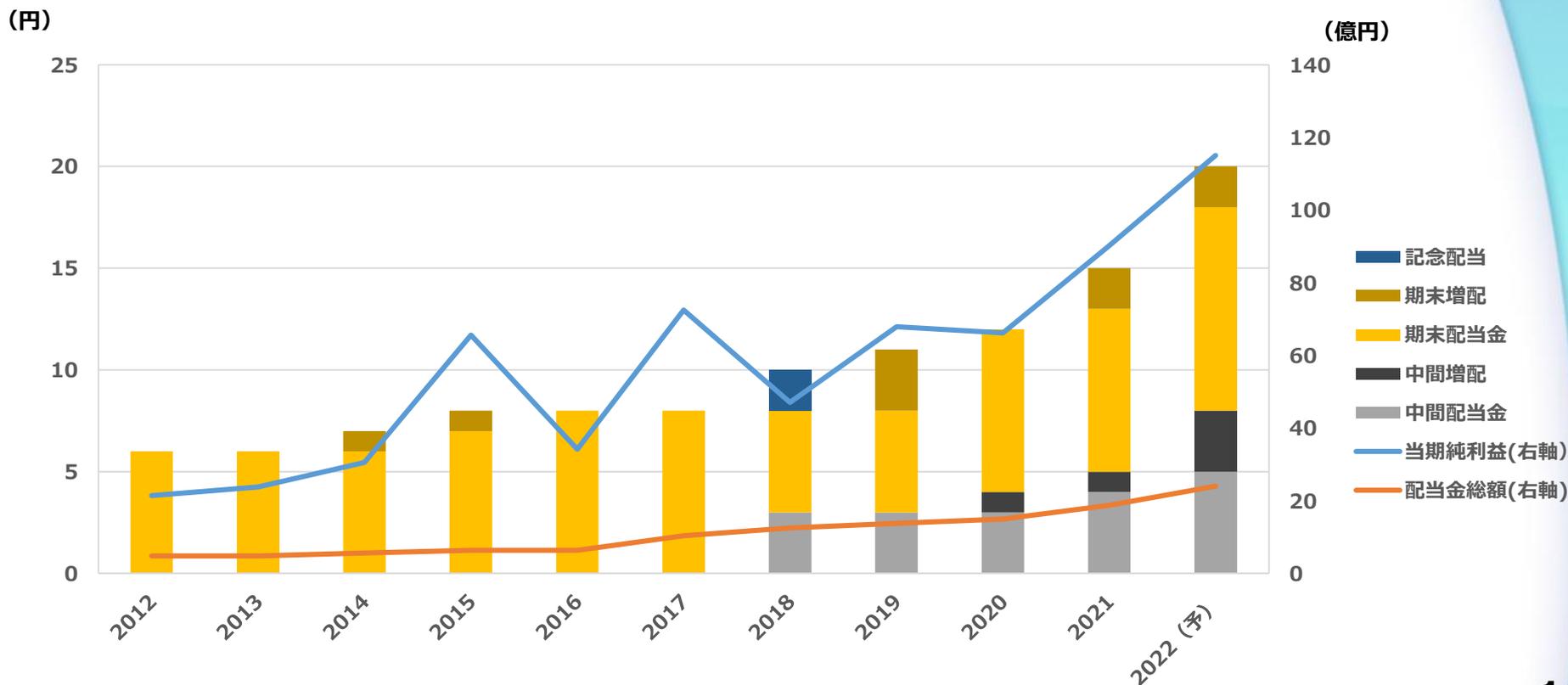
売上高	567億円
海外売上高	285億円
海外売上比率	50%

株主還元施策

配当基本方針

収益動向を踏まえた株主の皆様への還元及び企業体質の強化と将来の事業展開に備えるための内部留保などを総合的に判断しつつ、安定した配当を継続して行う

- ✓ 中間配当は業績を総合的に判断し、従来予想に対して3円増配となる8円を実施
- ✓ 期末配当は従来予想に対して2円増配となる12円とし、年間配当は20円の予定



- I. 事業環境
- II. 2022年10月期 第2四半期実績
- III. 2022年10月期 業績予想**
- IV. 重点施策の実施状況
- V. 質疑応答



2022年10月期 連結業績予想 (対前年)

	2021 実績	2022 修正予想*2	増減	増減要因
売上高	1,182	1,400	+218	—
農薬及び農業関連	892	1,068	+177	海外：アクシーブ大幅増収（+） 国内：エフィーダ、ディザルタ増収（+）
化成品	207	243	+36	・コロナ禍からの回復による増収（+）
営業利益	85	125	+40	・数量効果（+） ・為替影響（+） ・調達価格上昇による原価高（-）
経常利益	128	164	+36	・為替差益（+）
当期純利益*1	90	115	+25	—

*1親会社株主に帰属する当期純利益

*22022年6月7日に業績予想の上方修正を開示

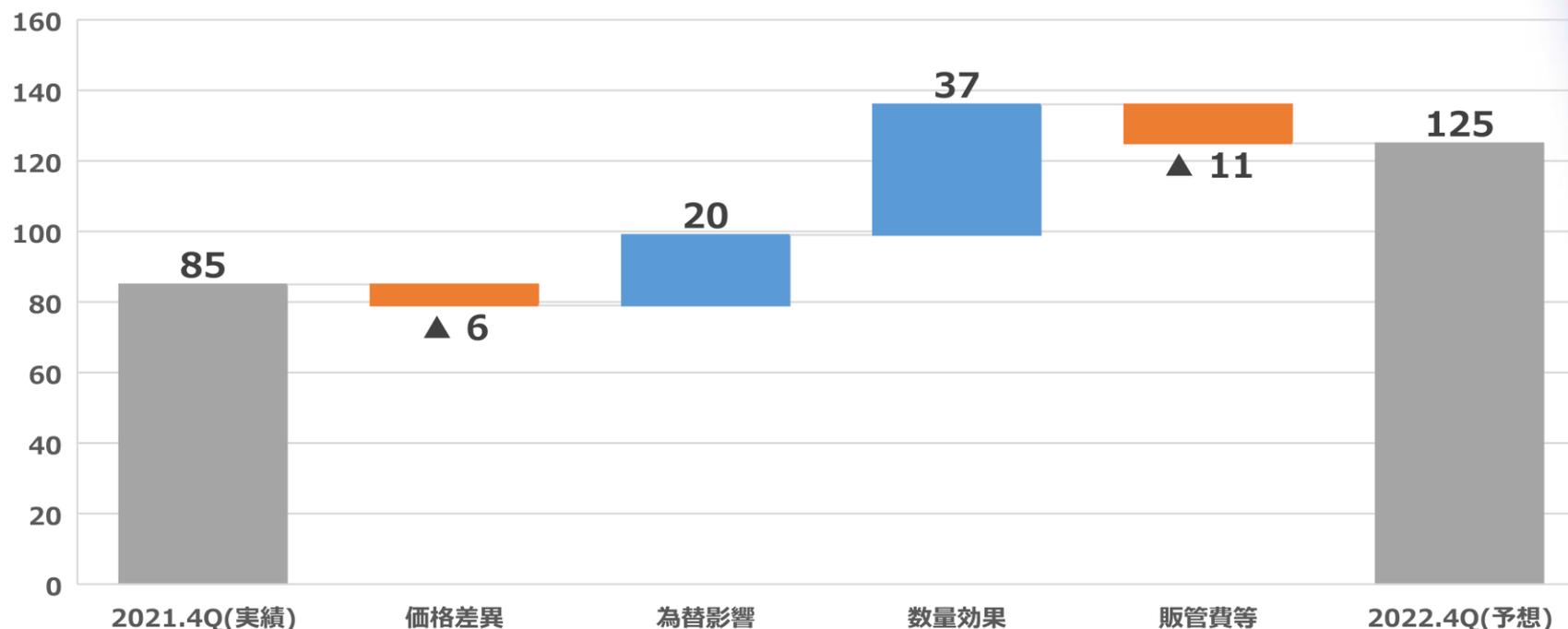
営業利益増減の要因分析

増減要因

- ✓ 農薬及び農業関連事業の大幅増収により、大幅な増益を予想
- ✓ 減益要因として原材料高騰の影響を見込むが、為替影響、数量効果により大幅な増益を予想
- ✓ 輸送費の高騰を主な要因として、販管費の増加を見込む

(億円)

営業利益増減要因



2022年10月期 連結業績予想 (対当初予想)

	2022 当初予想	2022 修正予想*2	増減	増減要因
売上高	1,239	1,400	+161	—
農薬及び農業関連	918	1,068	+150	<ul style="list-style-type: none"> ・アクシーブ大幅増収 (+) ・農薬事業全体の需要増 (+)
化成品	233	243	+10	<ul style="list-style-type: none"> ・アラミド繊維原料、電材向け樹脂原料の増収 (+)
営業利益	90	125	+35	<ul style="list-style-type: none"> ・数量効果 (+) ・為替影響 (+) ・調達価格上昇による原価高 (-)
経常利益	112	164	+52	<ul style="list-style-type: none"> ・為替差益 (+)
当期純利益*1	78	115	+37	—

*1親会社株主に帰属する当期純利益

*22022年6月7日に業績予想の上方修正を開示

2022年10月期 進捗及び事業計画

農薬及び農業関連事業

892億円（2021） → 1,068億円（2022） +177億円

<p>アクシーブ (+163億円)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 良好な市場環境を背景に大幅増収 ✓ 上半期予想を上振れて推移 ✓ 下半期（来シーズン向け出荷）も大幅上振れを見込む
<p>エフィーダ (+17億円)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 上半期は計画通りの進捗 ✓ 下半期（他社への導出）は好調な推移を見込む ✓ 国内水稲一発処理除草剤シェアNo.1の継続
<p>ディザルタ (+8億円)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 上半期は計画通りの進捗 ✓ 下半期から韓国向けの出荷を開始予定 ✓ 下半期（他社への導出）も計画通りの推移を見込む



入り繰りあるものの、自社開発剤を中心として農薬事業全体が好調に推移

2022年10月期 進捗及び事業計画

化成品事業

207億円（2021） → 243億円（2022） +36億円

塩素化事業

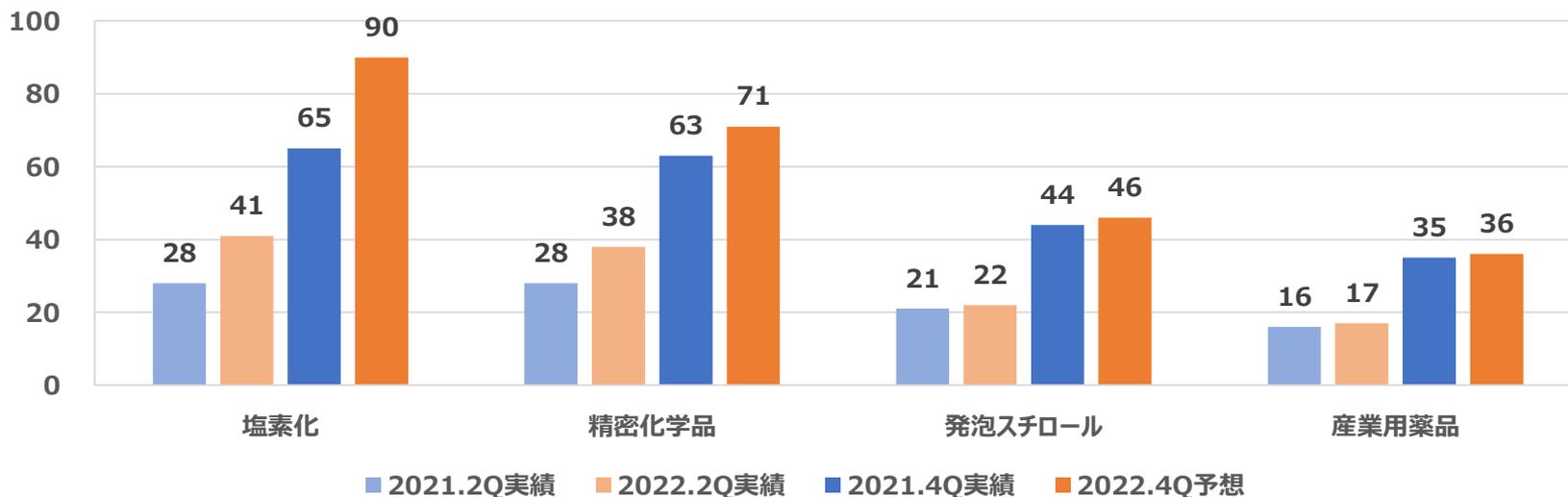
✓ アラミド繊維原料を中心にコロナ禍影響からの回復進む

精密化学品事業

✓ 電材向け材料（ビスマレイミド類）が好調に推移

(億円)

小セグメント別売上高推移



- I. 事業環境
- II. 2022年10月期 第2四半期実績
- III. 2022年10月期 業績予想
- IV. 重点施策の実施状況**
- V. 質疑応答

中期経営計画 (2021~2023) 概要

クミアイ化学グループの「あるべき姿」

独自技術で豊かなくらしを支え、自然と調和した社会の持続的発展に貢献する
 フレキシブルで存在感のある企業グループ

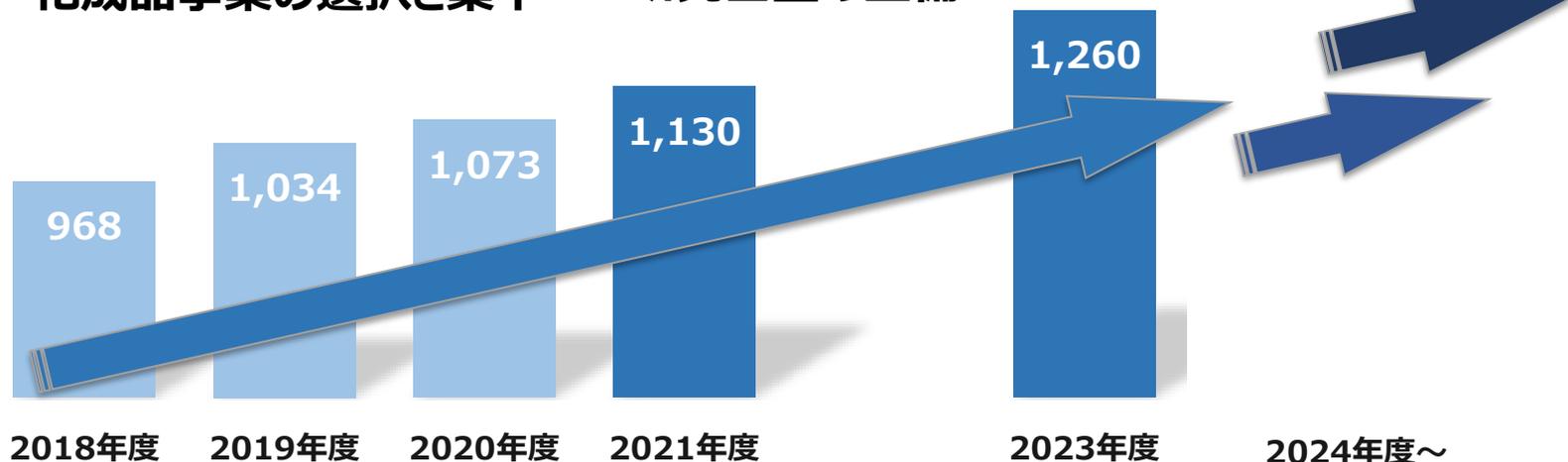
前中期経営計画(2018-2020)
 Create the Future
 ~未来を拓く~

中期経営計画(2021-2023)
 Create the Future
 ~新たな可能性へのチャレンジ~

100年企業
 「あるべき姿」の実現に向けた
 施策の実践

アクシーブの拡大
 新剤上市に向けた研究開発
 化成品事業の選択と集中

事業領域・研究領域の拡大
 新規開発品の市場投入
 最先端技術への参入
 研究基盤の整備



重要方針・重点施策

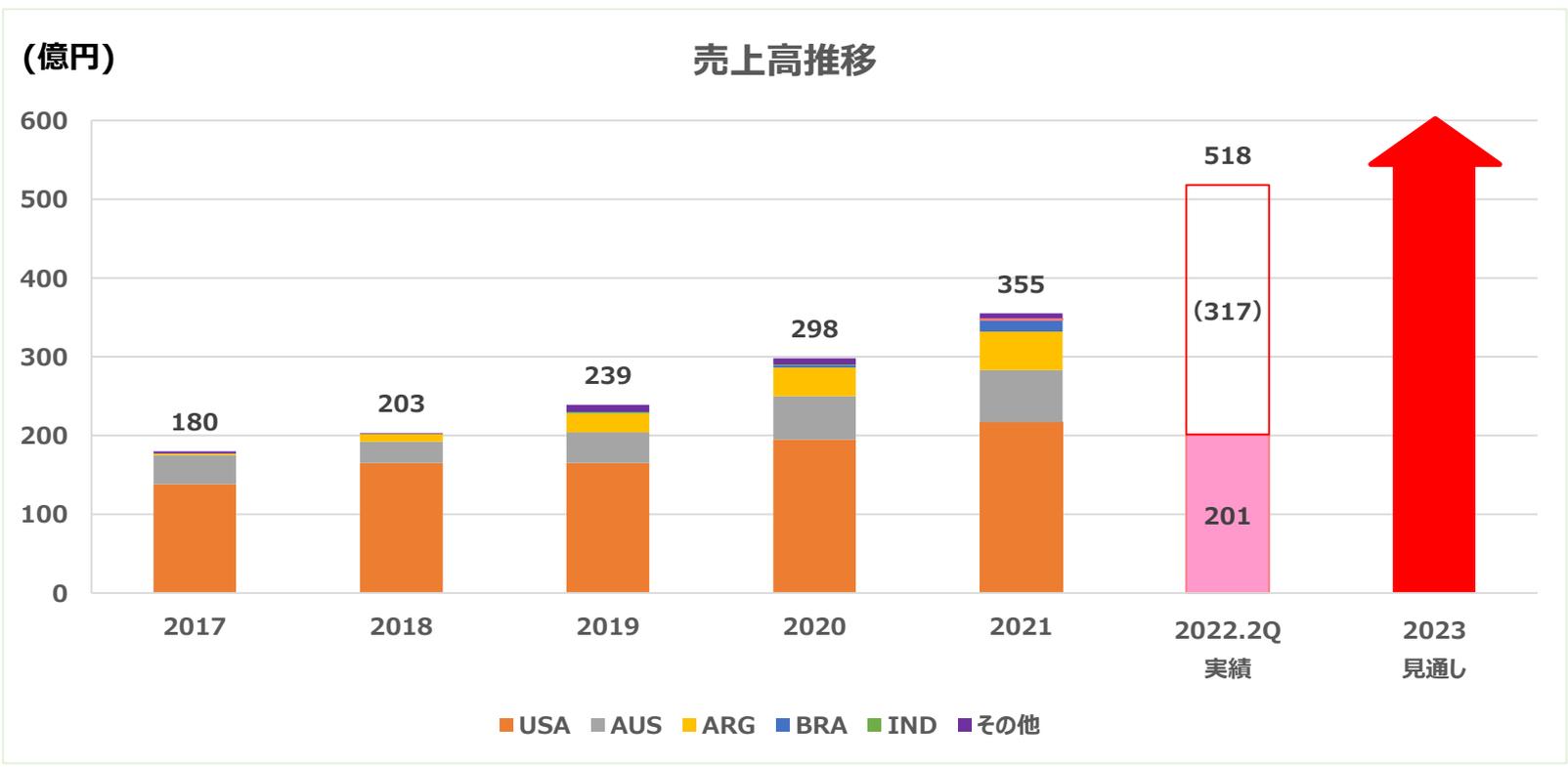
重要方針	重点施策
<p>研究領域、事業領域の拡大</p> <p>2 削減をゼロに  9 産業と技術革新の基盤をつくらう  11 住み続けられるまちづくりを  12 つくる責任 つかう責任  13 気候変動に具体的な対策を  15 陸の豊かさも守ろう </p>	<p>革新的な技術開発による研究領域の拡大 新規事業の開拓、新技術の導入による事業領域の拡大 成長戦略の推進による既存事業の拡大</p>
<p>販売ルートが多様性確保</p> <p>2 削減をゼロに  9 産業と技術革新の基盤をつくらう  12 つくる責任 つかう責任  15 陸の豊かさも守ろう </p>	<p>海外での販売ルートの多様化 新規アイテム・受託テーマの創出による新規販売チャネルの開拓</p>
<p>コスト競争力の確保</p> <p>9 産業と技術革新の基盤をつくらう  12 つくる責任 つかう責任  15 陸の豊かさも守ろう </p>	<p>製品原価低減に向けた生産体制、調達の最適化 生産技術の改善、生産プロセスの自動化による生産性・品質向上とコスト削減</p>
<p>ESGを重視した企業活動</p> <p>9 産業と技術革新の基盤をつくらう  12 つくる責任 つかう責任  13 気候変動に具体的な対策を  15 陸の豊かさも守ろう  17 パートナーシップで目標を達成しよう </p>	<p>環境負荷の低減を図った製品の開発、生産体制の構築 会社情報の積極的な発信 グループコンプライアンス体制の強化と推進 内部統制システムの的確な整備、運用 ステークホルダーへの農薬の必要性・安全性に関する啓発活動の立案と実践</p>

重点施策の実施状況（既存事業の拡大）

アクシーブ（畑作用除草剤）

2 品質をゼロに 	9 健康と技術革新の基盤をつくらう 	12 つくも責任 つかう責任 	15 誇りあきらめ 守らう 
---	--	---	--

- ✓ 穀物需要の増加を背景とした良好な市場環境による大幅成長
- ✓ 良好な市場環境の継続により、更なる成長を見込む



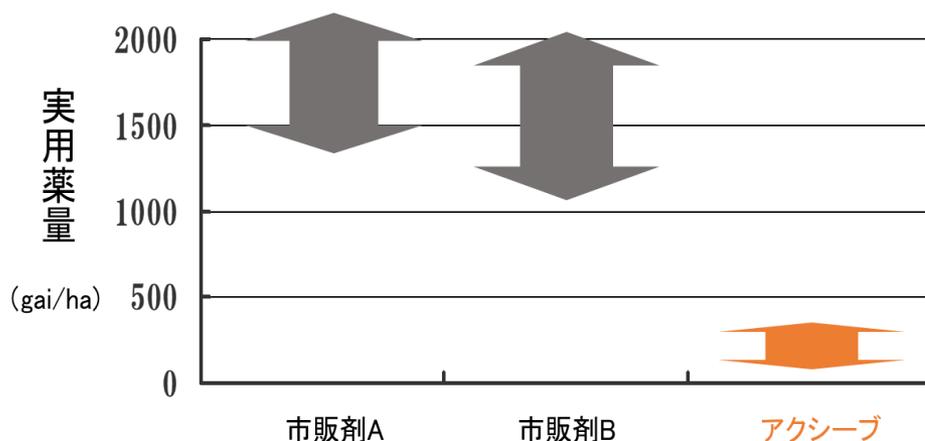
重点施策の実施状況（既存事業の拡大）

▶ アクシーブの基本情報

- ✓ ダイズ、コムギ、トウモロコシといった主要畑作物に使用できる
- ✓ 問題となるイネ科雑草から小型広葉雑草まで幅広い雑草に対して有効
- ✓ 世界17ヶ国で登録を取得（2022年5月時点）

▶ アクシーブの特長

① 効果の高さ（環境負荷低減）



② 効果の持続期間の長さ



重点施策の実施状況（既存事業の拡大）

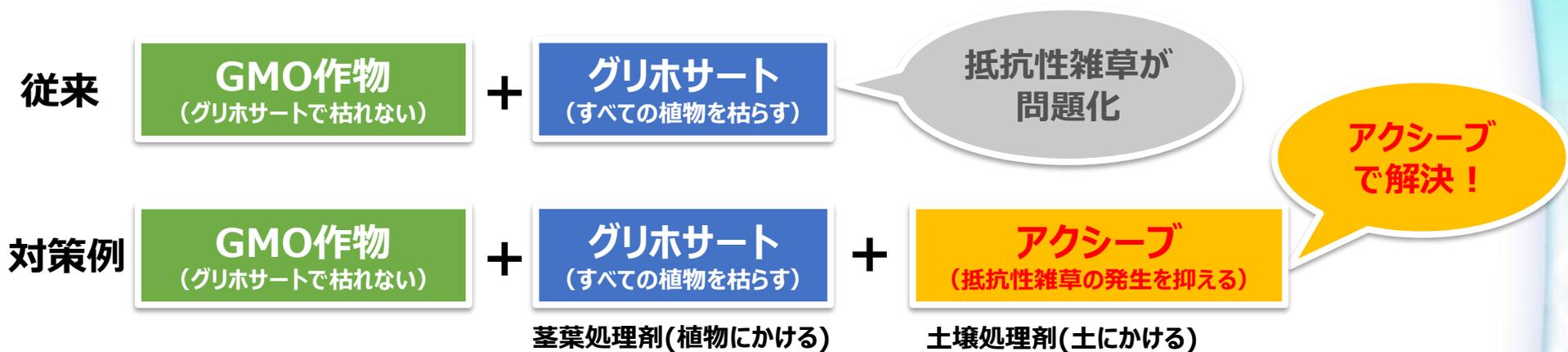
・ アクシーブが市場に受け入れられる背景

- ✓ 北米・南米の主要生産国におけるダイズ・トウモロコシ栽培では、その9割以上が遺伝子組み換え作物とグリホサートを用いた栽培体系
→ 近年、グリホサートに対する**抵抗性雑草問題が深刻化**
- ✓ オーストラリア、インド等では、コムギ栽培における**既存剤抵抗性雑草が問題**



問題となる抵抗性雑草に高い効果を示す「アクシーブ」が市場に受け入れられている

栽培体系のイメージ（ダイズ・トウモロコシ）



土壌処理剤を使用する面積が広がってきており、それに伴いアクシーブの需要も増加!

重点施策の実施状況（既存事業の拡大）

エフィーダ（水稲用除草剤）

- ✓ 順調な成長によるシェアの拡大
- ✓ 新規混合剤の継続的な開発による成長の推進
国内で新規混合剤1剤の販売を開始
- ✓ 海外での開発を推進（欧州で登録申請済み）

2 包機を ゼロに 	9 包機と技術革新の 進展をつくらう 	12 つくも責任 つからう責任 	15 笑の葉かさも 守らう 
--	---	--	--



ディザルタ（水稲用殺菌剤）

- ✓ 順調な成長によるシェアの拡大
- ✓ 新規混合剤の継続的な開発による成長の推進
国内で新規混合剤1剤の販売を開始
- ✓ 本年から韓国への出荷を開始予定
- ✓ 海外での開発を推進

2 包機を ゼロに 	9 包機と技術革新の 進展をつくらう 	12 つくも責任 つからう責任 	15 笑の葉かさも 守らう 
--	---	--	--



重点施策の実施状況 (研究領域、事業領域の拡大)

新化学研究所建設

- ✓ 研究センター統合による研究開発の効率化
- ✓ 異分野研究施設の統合によるイノベーション創出の促進
- ✓ 新規事業の創出に向けた新技術開発



所在地	静岡市清水区
総投資額	70億円 (予定)
着工	2021年12月
竣工	2023年4月

重点施策の実施状況

プライム市場への移行

- ✓プライム市場上場企業としての更なるガバナンスの強化
- ✓サステナビリティ経営の推進
→経済価値と社会価値の両立による更なる企業価値の向上

▶ 更なるガバナンスの強化

- ✓改訂コーポレートガバナンス・コードへの対応

▶ サステナビリティ経営の推進

- ✓サステナビリティ基本方針ならびに各種方針の策定、開示（2021.11）
- ✓サステナビリティ経営推進体制の整備
サステナビリティ推進委員会（2021.11）
サステナビリティ推進室（2022.1）→サステナビリティ推進部（2022.5）
- ✓事業に紐づいた施策の実施
みどりの食料システム戦略への対応
農業・農薬に関する啓発活動を通じた社会価値の向上

サステナビリティ経営の推進状況

サステナビリティ推進部の設置

- ✓サステナビリティ経営の基盤強化
- ✓レスポンシブル・ケア活動の推進

▶ サステナビリティ経営の基盤強化

- ✓サステナビリティ推進室をサステナビリティ推進部へと組織強化

▶ レスポンシブル・ケア活動の推進

- ✓サステナビリティ推進部にレスポンシブル・ケア推進課を設置
→サステナビリティ経営の柱の一つとして取り組む

※レスポンシブル・ケアとは

化学物質を扱うそれぞれの企業が化学物質の研究開発から製造、物流、使用、最終消費を経て廃棄・リサイクルに至る全ての過程において、自主的に「環境・安全・健康」を確保し、活動の成果を公表して社会との対話・コミュニケーションを行う活動

サステナビリティ経営の推進状況

農業・農薬の啓発活動

- ✓ 農薬はサステナブルな社会を支えるために必要な資材
- ✓ 農業・農薬に関する正しい情報の発信による、ステークホルダー及び一般消費者への理解促進
- ✓ 農業従事者の皆様に自信をもって農薬を使用していただけの環境づくりにより、日本の農業を盛り上げる

▶ 「お米を まもる はなし」の発行

- ✓ 小学生を対象に、お米作りの過程を通して農薬の役割を伝える冊子
- ✓ 事業所近隣の小学校等への配布を実施、全国へ展開予定
- ✓ デジタルブックとしてコーポレートサイトで公開中



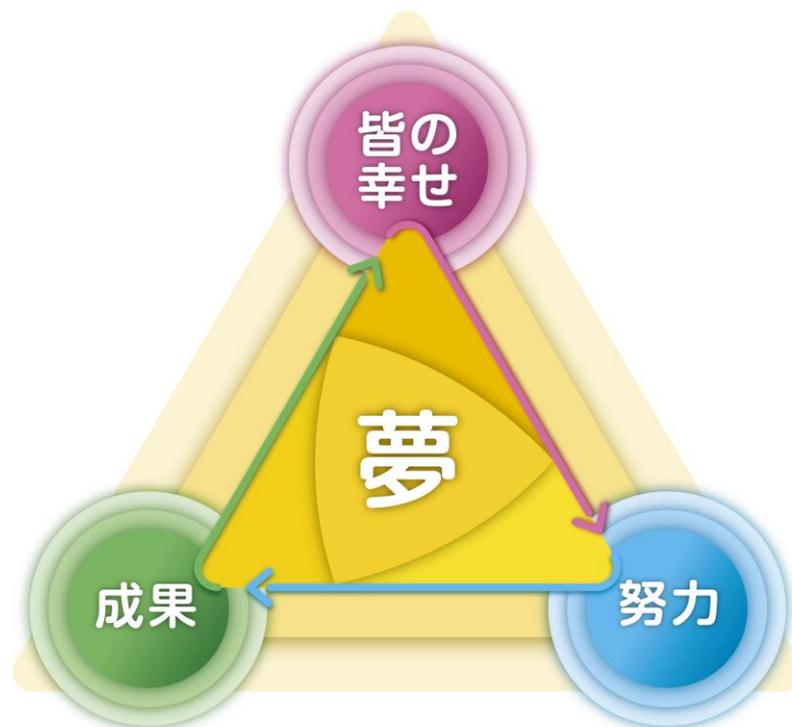
▶ 小学校への出前授業の実施

- ✓ 静岡県内の小学校で当社社員による出前授業を実施
- ✓ 教育現場への浸透による様々な世代への波及を目指す



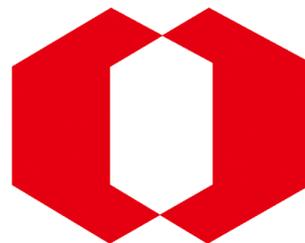
「夢」と「幸せの三角形」

- ✓ 従業員一人ひとりが「夢」に向かって「努力」し、その「成果」によって達成感・充実感を感じて「幸せ」になり、さらにその拡大を目指していく
- ✓ 会社としては、経済価値・社会価値を両立した「成果」を目指し、その先にある、すべてのステークホルダーの「幸せ」を追求
- ✓ 『「夢」と『幸せの三角形』』を個人から地球規模にまで拡大していくことがクミアイ化学のサステナビリティ経営



ご清聴ありがとうございました。

自然に学び 自然を守る



WMI

本資料に記載されている業績予想および将来の予想などに関する記述は、資料作成時点で入手された情報に基づき、弊社で判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。実際の業績は様々な要因により、これらの業績予想とは異なる可能性があります。

万が一、この情報に基づいて被ったいかなる損害についても、弊社および情報提供者は一切責任を負いませんこと、ご承知おきください。

弊社および弊社関連会社以外に関する情報は、公知の情報に依拠しており、情報の正確性などについて保証するものではありません。

<お問い合わせ先>

クミアイ化学工業株式会社

経営管理本部 総務人事部 広報・IR課

TEL: 03-3822-5036

FAX: 03-3823-6830

弊社IRサイトもご覧ください <http://ir.kumiai-chem.co.jp/>